

聞き方が違う様子があります。日常活動では「絵本の情感を感じて楽しむ活動」を行っています。「モチモチの木」の語りかけを行いました。主人公の男の子がお祖父さんに甘えているやりとりや、威張った感じでモチモチの木に話しかける場面では、体幹を大きく揺らし、表情柔らかく楽しそうな様子で聞いていました。読み進めていき、急にお祖父さんが苦しみだす緊迫した場面になると、それまで楽しそうに聞いていた表情が一気に変わり、揺らしていた体幹をとめて聞き入っています。主人公が不安になりながらも、お祖父さんを助けるために奮闘する場面になると、眉間にグッと力を入る様子が見られました。その後も、真剣な表情で力を入れたまま最後まで集中して聞き入っていました。「おしまいです。」としめくくると、体の力が抜けて和らいだ表情になりました。Aさんは日常生活に関することばの理解はありますが、絵本の自身の細かいことばの理解はありません。語り掛けられる物語の中の、優しく楽しい感じや、ハラハラした感じなど場面ごとの雰囲気を感じとり、気持ちを寄せて聞いている様子がみられました。



Bさん(横地分類A6)は、常にオーボールを好んで手にしています。オーボールを指で押してくぼませたり、両手で握って小さくすぼませたりとその感触と形が変わる様子を楽しんでいる様子が見られます。

日常活動では、「色や形の変化、立体感を感じて楽しむ活動」を行っています。「あかまるちゃん」という立体絵本を提供しました。ページごとで飛び出てくる物は違い、音が伴うものや、ゆらゆら揺れるものもあります。ページを開閉すると、のこぎりの様にギザギザした形のものが音を立てながら立ち上がってページくるでは、音と共に起き上がってくるものを、頬を

緩め楽しそうに覗き込んで見せていました。小さな丸がいくつもぶら下がった木が起き上がってくるページでは、木にぶら下がった丸い小さな素材を、木の裏側まで楽しそうに覗き込んで確認する様子も見られました。次のページをめくろうと指をかけると、めくられる先を意識して目を大きくし期待している様子もみられました。



うららの  
日常活動紹介  
岩本 摩紀

Aさん(横地分類A1)は、日常生活の中で聞こえてくる職員の足音や、他利用者に

行っている絵本の語りかけなどに耳を傾けている様子が見られます。職員が声をかけると、笑顔になり、自分に向けている声や周囲の音をよく聞いています。また、他利用者の手が自分の手に触れると、手を動かし触ろうとする様子が見られます。

現在行っている生きがい活動では、紙の感触や破れる音の変化を楽しめるような紙遊びや、ボールの感触や、転がる動きを見て楽しめるような活動を行っています。

新聞紙を大きく広げるとAさんはよく見えています。新聞紙を「ビリ、ビリ、ビリ」とリズムをつけて破っていくと、「おやっ」というような表情をし、集中して新聞紙の音を聞き始めます。「ビリ、ビリ」と破く音は真剣な表情で聞いていますが、最後の「ビリー」と長めに破った時にはパッと目を大きく見開いて、破れる音の変化を感じたようです。同じリズムをつけて何度か繰り返していくと、最後の「ビリー」と破いた時には笑顔で聞くようになります。次に、Aさんの耳元でクシャクシャと新聞紙を丸めていくと、丸める音を面白く感じているようで始めから笑顔で聞いています。紙

の破れていく様子や、破れる音の変化を楽しんでいました。また、破れた新聞紙を手元に置くと、新聞紙の感触に気付き何度も触ろうと真剣な表情で手を動かしていました。



ボールの転がる動きを見て楽しめるように、Aさんの顔よりも少し大きめのボールをゆつくりと左右に転がしていきます。ボールが転がると、その動きに合わせて視線も動きます。遠くへ転がっていく動きよりも左右に転がす動きのほうがより集中して見えています。何度も転がしているとき、真剣な表情でボールの動きを追い、手を伸ばす様子もみられました。

Aさんの体にボールをコロ